

# 生活新聞

2002

Oct.25/No.365

博報堂生活総合研究所





# 日

本にも、  
和風ブームがやってきた! ……らしいんですけど。  
確かに、歌舞伎や狂言、津軽三味線などの  
伝統芸能の世界では若い世代の人気者が登場し、  
和風のお稽古事も見直されている。  
若者の街には和風雑貨の店がオープンするし、  
おしゃれな和風雑誌も創刊されて、  
「和ってステキ」という空気はあるようです。  
でもブームとしての和と、生活の中の和はまた別物。  
日本人の生活と「和」とは、  
どのようなかわり方をしているのでしょうか?

「和風」調査

調査地域：首都圏

調査対象：19～73歳の男女384人（男性186人、女性198人）

調査時期：2002年8月

調査方法：郵送法

まず、様々な項目について、和風のものと同洋風のもの、どちらを好むかを聞いてみました。

ジャンル別に見てみると、以下の通り。

# 衣

和

洋

和服が似合う女性

51.5%

ドレスが似合う女性

48.5%

和服が似合う男性

17.1%

スーツが似合う男性

83.0%

白無垢の花嫁

27.0%

ウェディングドレスの花嫁

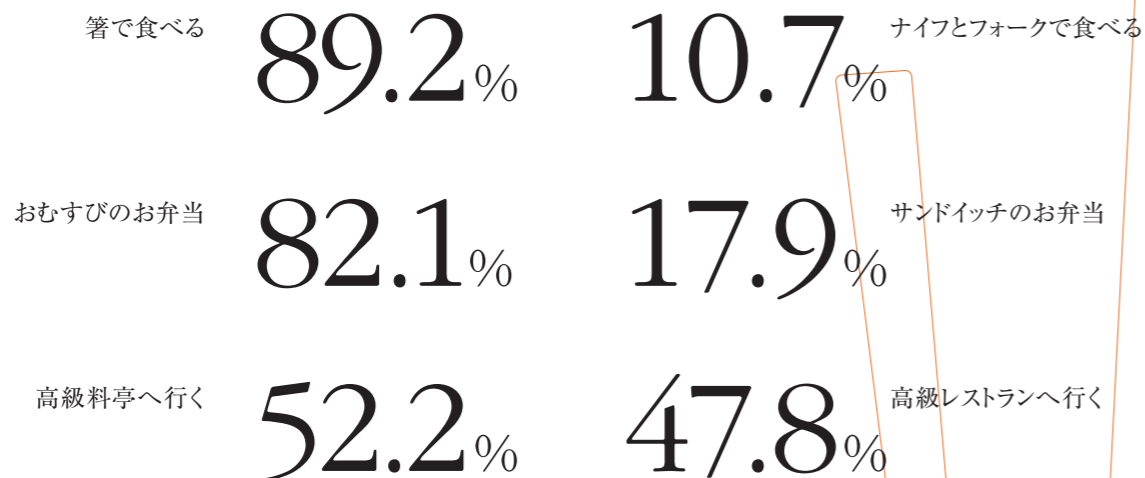
73.0%

和服が似合う男性の不人気さが目立ちますが、これは「和服が似合う女性」は、夜の世界や演歌の世界、または和風お稽古事の世界においてよく見かけるのに対して、「和服が似合う男性」という生きものを見る機会が少ない、ということに所以するのかもしれませんが。また和服の似合う女性は人気があるものの、花嫁に関していえばウェディングドレスが圧倒的に好まれています。大人になってからほとんど唯一許されているコスプレの機会においては、洋装の華やかさがアピールするようです。

# 食

和

洋

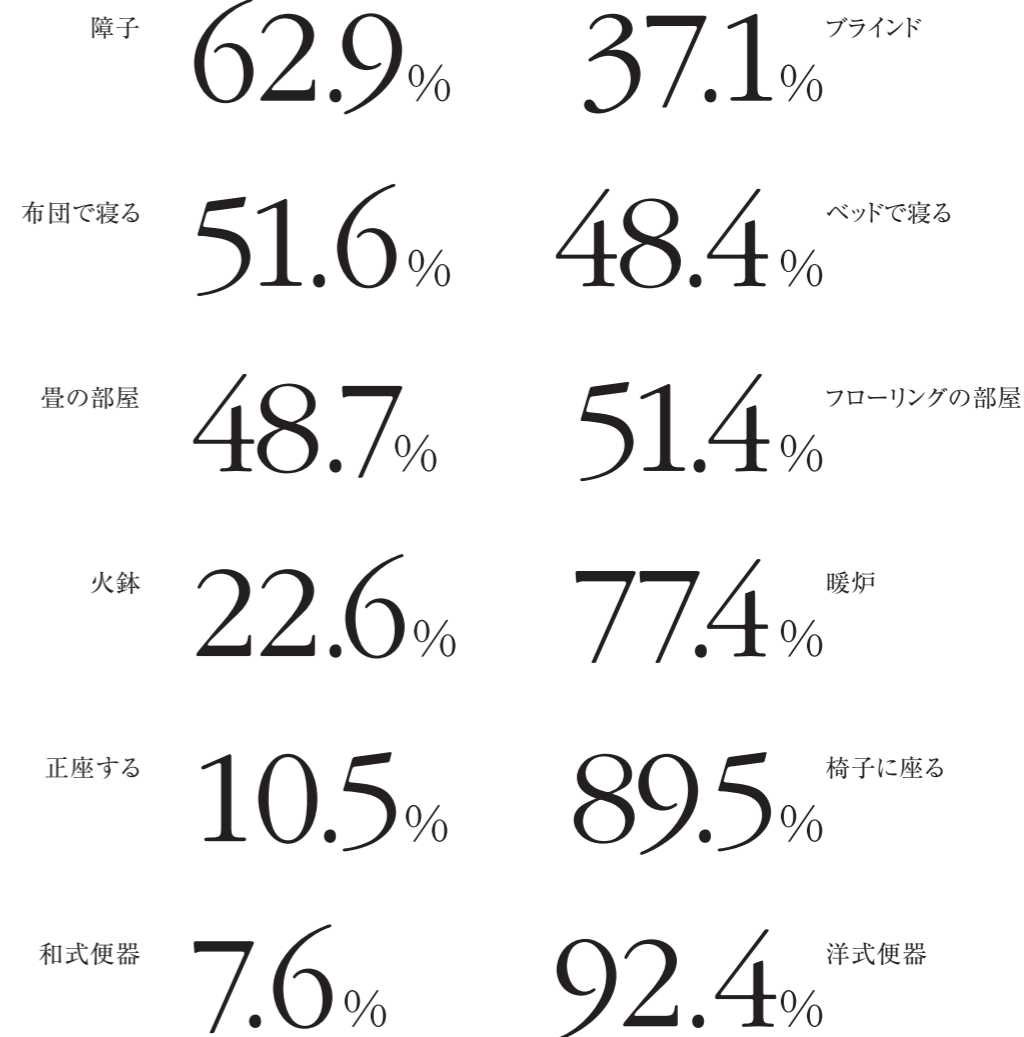


高い人気の「おむすび弁当」を除けば、和風の食べ物が好きという人と洋風の食べ物が好きという人に大きな差は見られません。が、「何で食べるか」となった時は、選ばれるのは圧倒的に、箸なのです。西洋料理からエスニック料理まで、世界各地の料理を貪欲に取り入れる日本人ですが、どんな料理も私達は心の中では、箸を使って食べている。そして箸で食べることさえできれば、日本人にとってはどんな料理も、「和食」のカテゴリー内に入ってくるのでしょう。



和

洋



# 住

畳はフローリングと同程度の人気を保ってはいますが、人は決して「畳の部屋で正座したい」と思っているわけではありません。正座は脚がづらいからやっぱり椅子がラクだし、排泄行為も和式便器でしゃがんでするより洋式便器の方が圧倒的に好き。畳の部屋が、きちんと座ってなにかをするために存在するものではないのであれば、それは「ゴロゴロする」、そして「布団を敷いて寝る」ためにある、つまりは横になるために存在している部屋なのです。

和

京都で寺を観る

53.2%

和風旅館に泊まる

53.4%

歌舞伎を観る

46.4%

時代小説

44.9%

邦画

23.3%

相撲

23.2%

演歌

17.7%

洋

イタリアで教会を観る

46.7%

ホテルに泊まる

46.6%

オペラを観る

53.6%

翻訳ミステリー

55.1%

洋画

76.7%

サッカー

76.8%

ポップス

82.3%

邦画、相撲、演歌……とパッとしない数字のようにも見えますが、邦画の相手はハリウッドであり、また相撲の相手は世界で最も普及しているスポーツといわれるサッカーであるならば、邦画も相撲も根強い人気を保っていると言えることができるでしょう。ブームと言われている時代小説も、翻訳ミステリーを相手に健闘しています。

さらには京都、和風旅館といった“和風観光”行動が、洋風観光行動を抑えました。「和風」がテーマのテーマパークとも言うことができる京都や和風旅館に身を置くことは、日本人にとってはイタリアの教会を観ることよりも得難いレジャーとなるのです。



体

和

洋

## 動作 習慣

ひらがな	78.5%	ローマ字	21.0%
お辞儀する	65.9%	握手する	34.0%
黒髪	63.7%	茶髪・金髪	36.4%
縦書き	23.4%	横書き	76.6%
一重まぶた	7.9%	二重まぶた	92.1%

そりゃまあ日本人だから、ローマ字よりはひらがなが好き、って言うよりは親しみはあるわけですよ……でも横書きするけど。でもって、今や髪を染めていない人の方が珍しいなどと言いますが、やっぱり黒髪の方が好ましいわけで……とはいっても、目は二重まぶたの方が絶対にいい。

という風に、和風と非和風の間で揺れ動く日本人の気持ち。しかしそれは、「揺れ動く」ではなく「入り交じる」という方が、近いのかもしれませんが。つまりは、握手しながらもそれだけではどうも物足りなくて、同時に深々と腰を曲げてお辞儀してしまうという、日本人独特のあの挨拶方法みたいに……。

## 「これってもしかして、当たり前？」

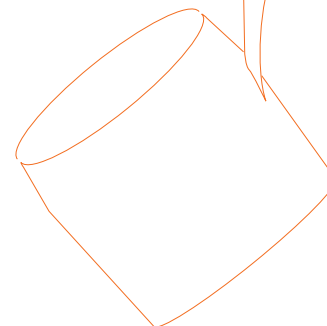
そもそも、基本的に日本人は「和風」というものが好きなのかどうか。  
その辺の事情を聞いてみましょう。

Q. あなたは、和風のものや行為が  
好きですか？

好き  
80.2%

特に好きではない  
19.8%

おおっ、やっぱり和風大ブーム！ などと一瞬思える数字ですが、和風文化とは実は自国の文化のこと。この数字がやけに高く見えてしまうのは、今まで和風暗黒の時代が続いていたことの、表れでしょう。



## ● 「和風は、大人になってから」

Q. 和風なものや行為を好むようになったのは……？

物心ついてからずっと好き

29.3%

10代の時から好きになった

13.8%

20代の時から好きになった

19.6%

30代以降から好きになった

37.3%

おそらく、生まれ育った家族が和風だったせいで「ずっと慣れ親しんでいるから好き」というタイプと、多少枯れかかってきてから初めて和風に目覚めるタイプとに大別されます。10代・20代という青春時代は、和風不毛の時代なのです。

## ● 「なんか和風って、近付きづらい」

Q. 「和風のものや行為が特に好きではない」という人に、その理由を聞いてみると……？  
(複数回答)

身近に感じられない

43.8%

お金がかかりそう

36.2%

面倒臭い

34.8%

若々しくない感じがする

15.8%

格好悪い

1.4%

洋風が格好よくて和風が格好悪い、というイメージではないのです。ただ、「和風な世界の間人間関係は古風でドロドロしている感じ」(29才・女性)  
「排他的なおいがする」(55才・男性)  
「和風のものを取り入れるには精神的・経済的余裕が必要と思うが、今はそれがない」(53才・女性)  
「一部の人のだけのもの、という感じがする」(38才・女性)

といった意見でもわかるように、和風は色々な意味で大変そうで、相当な覚悟がないと近付けない印象を持たれていることがあるのです。その辺の過剰包装的な印象を払拭すれば、和風人気はさらに高まるのかもしれませんが、「生活様式が和風ではなくなり、人の心も変わっている。根の無いところに花は咲かず、実もならない」(67才・女性)という意見を見れば、「ごもっとも……」というつぶやきも、漏れるのですが。

# Q. 「実は日本って、魅力的だったみたい」

なんで和風がブームになっているの……？（複数回答）

自国の文化は知っておくべきだから

57.8%

外国の文化よりも日本の文化の方が、魅力的だから

40.8%

和風な事柄は、贅沢な感じがするから

29.4%

外国の文化に飽きてきたから

28.0%

和風な事柄を身につけていると、何となく知的だから

25.0%

和風な事柄を習得するには時間がかかるので、高齢化社会に適しているから

21.6%

和風な事柄を知っていると格好いい感じがするから

21.0%

「自分の国を知っておきたい」という自己探求的な

気持ちと、「ふと気がつけ

ば日本文化もイケてるかも？」

という和風再発見的な気

持ちが拮抗しています。

いずれにしても、グローバ

ル化がある程度進んだこ

とによって、和風文化の個

性がクッキリと際立ってき

たということなのでしょう。

一方で、和風は知的、

贅沢といった“特殊なもの”

感覚も存在します。その

和風の特殊さこそが、好

きな人にとってはたまらな

く魅力的であり、そうでな

い人には身近に感じられ

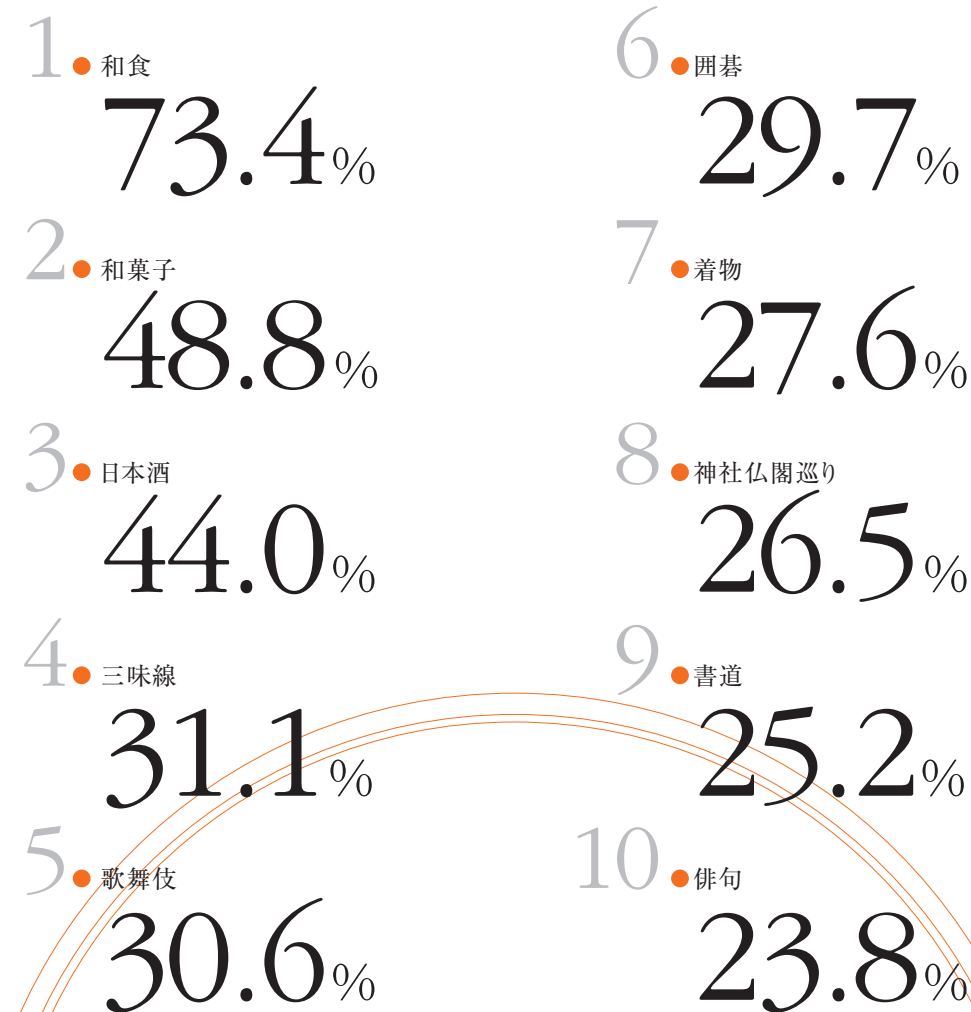
ない要因ともなっています。

# ● 和風世界を救うのは？

様々な和風な事柄29項目の中から、

「これから人気が高まりそうなもの」を

聞いてみました（複数回答）。上位10項目は、以下の通り。



やはり誰もが接する食の力は強く、上位を独占しています。が、民謡（10.4%）、琴（10.8%）といった邦楽系の中では圧倒的人気の三味線が4位、将棋（15.5%）の倍近いポイントを獲得して囲碁が5位と、意外なものも健闘。おそらく、三味線では吉田兄弟、囲碁ではマンガ「ヒカルの碁」人気が関係しているものと思われます。

さらには短歌（13.2%）より俳句、茶道（22.0%）、華道（14.6%）より書道と、手を出しやすそうかな、と思わせるものが上位に入っています。

気軽に触れることができそうなこと。そうでなければ、その分野で傑出したヒーローが登場すること。和風界のこれからの人気向上は、その二点にかかっているようです。



## 私はこんな「和風」が好き！

ご飯に味噌汁、漬物に煮物に焼き魚……といった和食を、非常に多くの人が好むのは、言わずもがな。

ではその他の部分で好まれる「和風」はどのようなものか、特徴的なものを年代別に見てみましょう。

人はそれぞれ、どのような範囲で和風というものを捉えているのか……？

### 20代

- 風鈴を聞きながら縁側で昼寝 ●男性
- 新幹線 ●男性
- 柴犬、三毛猫、銭湯 ●男性
- 春の桜、秋の紅葉 ●女性
- 義理人情、頑固なおやじ ●男性
- 日本刀、武者鎧 ●男性
- 仏壇、お年玉、おしんこ ●女性

### 30代

- 床の間は絶対必要。落ち着く ●男性
- 和のインテリア、和ガラス、和食器 ●女性
- 抹茶、抹茶味のお菓子 ●女性
- やったことないけど、和服で初詣 ●男性
- 捕り物小説を読み、隅田川の橋巡りをし、浅草で天婦羅を食べる ●男性
- 鹿おどしの聞こえる京都の庭園。一日中でもいたい ●男性
- 掘りごたつ、下駄 ●男性
- 蚊取り線香のにおい ●女性

### 40代

- 職人 ●男性
- 手ぬぐいや千代紙 ●女性
- 靴をぬいで家にあがること ●女性
- 盆暮れの挨拶や礼状など、人への配慮 ●男性
- 畳のにおいをかぎながら、ゴロンと寝転ぶ ●男性
- 居酒屋 ●男性
- 畳の部屋でパチンと枝にはさみを入れてお花をいけると、心が落ち着く ●女性

### 50代

- 洋食を食べても最後はごはんで終わりにしたい ●男性
- ひな祭り、鯉のぼり、七夕、月見 ●女性
- 四国八十八ヵ所巡りなどの、遍路 ●男性
- 湯槽にたっぷりお湯をためて入る ●女性
- 礼儀正しさ、華美でないところ ●男性
- お祭りの太鼓や笛の音を聞くと、幼い頃に戻った気がして心が踊る ●女性
- 季節によって着物を変える。四季が実感できる ●女性

### 60代以上

- 着物でのお出かけ ●女性
- 武士道。昔の日本はよかった ●男性
- 城 ●男性
- 小唄、詩吟 ●男性
- 奥床しさ、謙虚さ ●男性

20代においては、「新幹線」や「頑固おやじ」までが和風の範疇に入ってくる人もいれば、「縁側で昼寝」といった行為を好む人もいるということで、「和風」という言葉がイメージさせる範囲が非常に広がっています。また年令を重ねるにつれ、礼儀正しさ、謙虚さといった精神的な部分が「好ましい和風」に含まれてきて、現在の日本人の精神性への嘆き、のような雰囲気も見受けられます。

全般的に言うことができるのは、日本人が好む和風は身体感覚と密接に結びいているということ。和食の「味」は言わずもがな、畳や線香などの和を感じさせる「におい」も好まれているし、風鈴や鹿おどしやお祭りの「音」、畳や風呂、下駄などの「皮膚感覚」……と、日本人の五感に、和は直接訴えてくるのです。

現在の「和」の世界は、和食や畳といった普通の人が五感で理解できる部分と、伝統芸能や着物といった、五感での理解の範疇外の部分に分かれているようです。前者は身体で理解しながらも、後者に関しては、まるで外国人が日本文化を見る時のような新鮮さを覚える、日本人。後者がブームに終わらず定着していくには、どれだけ日本人の五感に訴えることができるかが、ポイントとなってくるのでしょう。



# 生活太郎の 一刀独断

◎連載第119回

## 和 の素

キリシタンって和風なのかしら。雑誌「タイトル」11月号に載っている熊本県天草の「石山離宮・五足のくつ」という宿の写真を見ていて思います。五足のくつのレストランの回廊は、修道院のように天井がカーブを描いている。突き当たりには聖母像。幼子イエスを抱えています。そこに至る茶室のようなブラウンの空間をあんどん風の明かりが灯っていて。写真を見る限り、気持ち的には和風です。この旅館は、屋外には灯籠と露天風呂。家の中には猫足のついた洋式風呂があったりします。ステンドグラスを通してくる光には、障子のような落ち着きが。和って何でしょうね。安藤忠雄の打ちっ放しのコンクリートに、外国の人たちは、ジャパンを感じるそうです。単に昔の素材を使っているということだけでなく、もっと奥深いところから、和は立ち上ってくるのでしょうか。ごはんを食べるとします。妻は、漬け物を箸で取って、ごはんをひとくち。ここから食事が始まります。ときにわたしがおいしいシチューを作っても、最初の動作は、漬け物、ごはんです。ああ、早く食べてみてよと心のなかで叫んでいるのですが。地方の小さな町に行っても、ついパスタなんかを食べてしまうわたしのほうがへんなのでしょう。シャワーで十分。温泉に行っても、カラスの行水です。では、わたしは和風ではないのか。いや、とても和をしています。逃げられない和風に浸っています。毎日、日本語で考え暮らしているのですから。大和の言語で生きているわたしたち。日本のことばで育つ。これが和の素なんでしょう。和歌などを讀むと、ふわっと情景が浮かぶでしょう?たとえば、和のワトマス試験紙。雪の灯籠。桜吹雪。竹林の風。ほら、なんだか、そこにいるような。ああ、和からは逃げられられません。